

人間社会学部

試験問題冊子

(奨学生 12月13日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 ～ 20、記述式解答欄の A ～ J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

現在のネットメディアやSNS^{注1}の多くにはコメント欄がついている。ニュース記事や投稿に対する所感や解説、同意や共感、反論や罵倒¹、皮肉や当てこすりの場、というのが大方であり、本来は記事や投稿という「主」に対して「従」の存在だった。

しかし、今や「従」ではなくなってきた。

たとえば、「Yahoo!ニュース」をスマホで読む場合。最上部に本文の冒頭が表示され、次にニュースのポイント解説などがあり、その下に本文の続き……ではない。本文より先にコメント欄が目に入る。本文の続きを読むには「記事全文を読む」ボタンをタップしなければ読めない。

コメント欄の最上部には、多数の「いいね」がついた匿名^{注2}投稿者のコメントがアルゴリズムにしたがって上がってくる。つまり、本文を最後まで読んで自分の頭で考えをまとめる前に、「優勢を占める世論」らしきものが確認できてしまう。これは現在のネットメディアではきわめて標準的な^{注3}仕様だ。

筆者が「News Picks」の記者に取材を受けた際、記憶に刻まれた言葉がある。「News Picks」はソーシャル型経済メディアを掲げており、比較的^{注4}意識の高い^{注5}ビジネスマンを読者に擁^{よう}することでも知られているが、その記者によれば「他の人がそのニュースにつけたコメントしか読んでいないという声もよく聞く」のだそうだ。「News Picks」はプロピッカーと呼ばれるさまざまなビジネス分野の専門家がニュースにコメントをつけて解説している。肝心^{かんじん}のニュース本体を読まず、権威による「ニュースをどう解釈すればいいか」の指南だけを受けているわけだ。

I

現代人はこのようなネットメディアの^{注6}仕様に慣れきってしまったている。その結果、まずニュースや投稿を読み、それについてノーヒントかつゼロベースで思考するよりも前に、「世間ではどんな意見が優勢で、どの意見に乗っておけば世間の流れからズレないか」を確認するのが習慣化した。

言ってみれば、自分で問題を解く前に^{注7}「正解」を知ろうとするようなもの。問題のすぐ下に答えが書いてあるのだから、仕方がないと言えば仕方がない。その誘惑を振り払うのは難しく、人によってはろくにニュースを読まず、延々とコメントばかりを読み耽^{ふけ}ることになる。

ここで言う^{注8}「正解」とは決して、科学的あるいは哲学的な意味合いを帯びた真理のことではない。強固な客観性や再現性を備えたエビデンス^{注9}込みのファクトでもない。「優勢を占める世論」、つまり「みんながどう思っているか」だ。

「公正中立な報道」や「事実」よりも前に、まず「みんながどう思っているか」を確

認したいという気分は、数年前から当たり前になってきている。

動画プロデューサーの明石ガクト氏は、「今回（二〇二二年）のワールドカップでは、何か大きな出来事があったとき、人々が大手のメディアではなく、個人のT w i t t e rなどを確認するスタイルへと変わってきている、という気づきもあった」と記している。ここでいう「個人のT w i t t e r（現X）」とは「フォロワー数が多く、³界隈の世論形成に影響力のある個人」のこと。つまり「みんな」の代表だ。

「他人の意見など、どうだっていいではないか。自分を貫け」という正論めいた説教は、彼らの耳には入らない。なぜなら、もし「優勢を占める世論」を確認しないままあるニュースを読み、無邪気に表明した意見が、フォロワー数の多い第三者から「旧時代的な価値観ですね」などとデイスられたら？ その筋に詳しい者から「考えが浅い」などと嘲笑^{ちやうしやう}されたら？

インターネットにはそういう危険が潜んでいる。あらゆる分野に市井の専門家⁴、いわゆる「インターネット警察」がいるからだ。彼らは「浅い」意見を見逃してくれない。

〈中略〉

だからこそ、人気のアニメや映画やドラマの考察動画やネタバレ解説サイトはいつでも大盛況だ。自分の頭で考える前にこれらをチェックすれば、作品解釈の「正解」がわかる。その「正解」を引き写しにした意見なら安心して表明できる。

どの考察動画を参考にすればいいかは、再生回数が教えてくれる。多ければ多いほうがいい。コメントについた「共感した」や「いいね！」などの数が多ければ多いほど、「優勢を占める世論」「正解」であるのと同じだ。

Ⅱ

ここ数年、大学生を相手としたグループインタビューで気づいたことがある。社会問題について意見を求めると、真面目な学生ほど、開口一番「優勢を占める世論」を律儀に「代読」しはじめるのだ。日本の少子化問題なら「このまま子供をつくらない夫婦が増えると、生産人口が減って日本の経済力が落ちますよね」など。

そんなことを聞きたいのではない。あなたの意見を聞きたいんだと問い直すと、これまた多くの学生がこんな枕詞^{まくらことば}を多用する。

「えっと、僕（私）の意見になっちゃうんですけど……」

こちら、最初から「君」の「個人的な意見」しか聞いていない。にもかかわらず、こんな定型句で予防線を張ってくる。その心は、「多くの人が同意できる優勢を占める世論ではないかもしれませんが、どうかそれを責めないでください」だ。

意見を問われたときに「I think」で語れない。主語を自分以外にずらし、「社会的には、いまこんな感じですよ」とお茶を濁^{にご}そうとする。ただただ、自分の意見に自信がないのだ。

それも当然である。十代のころから「インターネット警察」の恐ろしさを心底味わい、「警察」の餌食^{えじき}になった諸先輩方の悲惨さを嫌というほど目の当たりにした彼らにとつて、「個人的な意見」を实名顔出しで語ることに対する抵抗感・恐怖感は根強い。自分の意見が「優勢を占める世論」とズレていないかどうかをまず確認したいと考えるのは、無理もない。

無論だが、本来は他人に自分の意見を押し付けられない限り、個人的な意見の表明が責められるいわれなどないはずだ。しかし、彼らは恐れている。とある論客が数年前に一度だけ放った言葉が一時期若年層のあいだで異常に浸透した事実^アは、それを端的に表してはいないか。

「それってあなたの感想ですよ」

場の空気を読まず、奔放に個人的な感想を口にする^{ほんぼう}と、こういうふう^{くさ}に腐されるのだ。日本に古来からある「世間」の視線を最も気にするメンタリティと、現在の若年層が「優勢を占める世論」をい^いの一番に知りたいと願う気分は、ほぼ地続きにある。特定世代に限らず、インターネットメディアに触れる頻度が高ければ高いほどコメント欄をつい読んでしまう理由には、そんな下地があるのではないか。

III

「正解^{〴〵}を知りたい」をもっと正確に言うなら、「最短距離で正解^{〴〵}を知りたい」だ。コメント欄が本文の文末ではなく、本文冒頭付近から遷移^{せんい}できるようになっているのは、そのためである。

先に挙げた「Yahoo! ニュース」ほか多くのニュースメディアには、冒頭数行のすぐ下に短文の要約があったり、本文が始まる前に「ざっくり言う」と称した箇条書き三つでニュースの内容を説明するパートが設けられたりしている。さながら学術論文につける要約のようなものだが、論文と違ってニュース本体はいいとこ一〇〇〇〜二〇〇〇字、ものによっては数百字程度しかない。本文を最後まで読んだところで、十分もかからないだろう。

にもかかわらず、「最短距離で正解^{〴〵}を知りたい」勢はその数分すら無駄だと考える。要点だけを一秒でも早く教えてほしい。その要望にニュースメディア側が応え続けた結果、もともとしっかりと長文を読むタイプの人すら、コメント欄を含めた「早い結論提示^{こた}」という仕様^{〴〵}に慣らされてしまった感がある。

〈中略〉

IV

先日話をしたある二十代前半の女性は、典型的な「最短距離で正解^{〴〵}を知りたい」若者だった。ドラマやアニメはすべて例外なく一・五倍速で観る。しかも必ずスマホでマンガを読むかSNSをチェックしながらの「ながら観」。理由は、観たいものがたくさんあって時間が足りないから。

当然ながら、作品内に巧妙に貼られた伏線や、セリフでは説明されない裏テーマなどに気付けないことも多い。なので、観終わったあとに「よくわかんなかった」場合は、その作品の考察動画を観まくり、確認して納得するそう^うだ。明らかに、ノーヒントかつゼロベースでは思考していない。見事に自分の脳味噌を回していない。

それだったら、最初からじっくり作品に集中して、自力で解釈すればいいのではと問うと、こう返ってきた。

「解釈が間違ってたなら、嫌じゃないですか」
やはり正解^{〴〵}が欲しいのだ。

彼女を馬鹿にするのはたやすい。しかし、ニュース本文をろくに精読もせず、自分の頭で思考することを省略してコメント欄を漁^{あさ}ってしまうという行動も、〃正解〃に執着する臆病なメンタリテイという意味で、本質的には同じだ。もはや〃正解〃志向は、若者批判の範疇^{はんぷう}をとくに超えている。

そのうえで言うなら、この傾向を「現代人の読解リテラシー低下」とメディアが嘆くのも少し違う気がする。なぜなら本稿で再三繰り返しているインターネットメディアの〃仕様〃は、彼ら自身が――少しでも多くのPVを稼^{かせ}ぐために――意気^い□々と確立したものだからだ。

「Yahoo!ニュース」は本文を読み切る前にコメント欄をチラ見せするだけでなく、ニュースリスト画面の各ニュースの見出しの下に、コメント数を数字で表示させている。明らかに、「コメント数が多い〃優勢を占める世論が高い精度で可視化されているニュース」を優先的にタップさせる〃仕様〃だ。

TwitterがXになってもっとも変化した点は、「内容が重要なポスト」より、「多くの人がリプライ、リポスト、引用しているポスト」の表示頻度が劇的に高まったことだ。リプライや引用は、いわばポストについてのコメント。これもまた、「コメント数が多い〃優勢を占める世論が高い精度で可視化されている」であり、〃正解^ユを知りたいユーザーにとつてはうってつけの〃仕様^オ〃であろう。

コメント欄をはじめとしたインターネットメディア特有の〃仕様〃によって人びとが脳味噌を回さなくなり、読解力を下げ、その劣化した読者のもたらすPV欲しさに、メディアはまた自分たちの〃仕様〃を彼ら向きに最適化させていく。昨今では、AIを導入して本文の自動要約を表示させるだけでなく、AIで上位コメントの要約まで行なうサイトも現れた。本文はおろか、もはやコメントすら読まなくていい。さしずめ咀嚼^{そしゃく}不要の離乳食だ。「現代人の読解リテラシー低下」の最大の加担者は、メディア自身である。

V

しかし改めて考えてみたい。はたして上位コメントは本当に「優勢を占める世論」なのだろうか？ コメント欄に書き込む人たちは本当に「平均的な世間」なのだろうか？ インターネットでの炎上が意外なほど一般社会で知名度がなかったり、インターネット上での有名人が選挙に出馬しても驚くほど票がとれなかったりすることを考えると、怪しいと言わざるを得ない。

そもそもなぜ、ニュースの読者がそこについたコメントを「優勢を占める世論」だと感じるのかと言え、多くのマスメディアがそれらを、あたかも「平均的な世間」であるかのように取り扱い、引用しつつ報じるからだ。「ネットにはこのような意見が見られる一方、このような意見も寄せられています」は当のネットメディアだけでなく、TVや雑誌でもよく見られる常套句^{じょうとうく}である。

結果、多くの人たちは、コメント欄を読めば「優勢を占める世論」がきっちり把握できると錯覚し、そこに〃正解〃があると信じてコメント欄を今日もまた読み漁る。

じつに不毛な世界だ。

その不毛さについて、「うちはインターネットメディアでもTV局でもないから」と無関係を決め込む紙の出版社とて、じつは大差ない。目次にその本の結論、すなわち〃正

解^レが簡潔にサマリーされているビジネス書や啓発書の、なんと多いことか。目次の小見出しだけ追えば内容がだいたい把握できてしまう本が、巷^{ちまた}には溢れている。今日び啓発書やビジネス書は離乳食級に咀嚼を必要としない設え^{しづ}でないと売れないことを、当の出版社がよくわかっているからだ。

しかも我々は、それらの本を読み始める前から、別の人の読後所感を強制的に目に入れさせられる。本に巻かれている帯に著名人が寄せる推薦文、いわゆる「帯コメント」というやつだ。

我々は、どこまで行っても「コメント欄」から逃れられない。

(稲田 豊史『Voice』「コメント欄」からは逃れられない)

注1…SNS 人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供する会員制のオンラインサービス

注2…アルゴリズム 問題を解決するための手段や計算方法(やり方)

ここでは、ユーザーの好みを機械学習し、それによって表示する情報や広告を変えるシステムといったような意味で使われている。

注3…エビデンス 科学的な根拠

問1 空欄Ⅰ～Ⅴにはそれぞれ、その後の文章の内容を端的に表す小題が入る。それぞれの小題として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つずつ選びなさい。

I 1 II 2 III 3 IV 4 V 5

- ① コメント欄は本当に「優勢を占める世論」なのか?
- ② 何よりも「みんながどう思っているか」を確認したい
- ③ 読解リテラシー低下のA級戦犯はメディア自身
- ④ 「最短」に最適化されたネットの文章
- ⑤ 「それってあなたの感想ですよね」の恐怖

問2 傍線部1～5の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 A 2 B 3 C 4 D 5 E

問3 傍線部ア「それ」の指す内容として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 多くの学生が、自分の意見が批判されることを過度に恐れているということ
- ② 大学生が、自分の勝手な思い付きを客観的に検証するようになってきたこと
- ③ ある論客が数年前に放った言葉が、若年層のあいだで異常に浸透した事実
- ④ インターネット警察が、若者たちの主体的な自己主張を阻害している現状

問4 傍線部イ「彼ら」の意味するところとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 大学生
- ② メディア
- ③ 現代人
- ④ プロピッカー

7

問5 傍線部ウ「意気□々」の空欄部に入るのと同じ漢字が空欄部に入るものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 一□来復
- ② □意周到
- ③ 前途□々
- ④ 国威発□
- ⑤ 多種多□

8

問6 傍線部エ「正解」の本文中での意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① エビデンスに基づいた、主観を交えない客観的判断に基づいた「ファクト」
- ② 科学的あるいは哲学的な意味合いを帯びた正確無比で、普遍的な正しい真理
- ③ 他者に慮^{おもんほか}ることのない、自分自身が主体的に考えて正しいと判断した主張
- ④ みんながどう思っているかという、優勢を占めるとされる世論らしきもの
- ⑤ 正確なデータに基づいた、客観的で妥当性が認められる「優勢を占める世論」

9

問7 傍線部オ「仕様」の本文中での意味として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 最上部に本文の冒頭が表示される構成
- ② 本文の次にポイントや解説が続く割付
- ③ 本文より先にコメント欄がある形式
- ④ 権威による指南が末尾に付加される型

10

問8 本文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

11

- ① 「正解」を気にしてしまう現代の若者の意識は、伝統的な日本人の「世間」を気にする意識とは関連性がない。
- ② 「みんながどう思っているか」より「公正中立な報道」を望む声が、数年前から世論の「主流」になって来た。

③ 本文をじっくりと読まず、短絡的に定説に洗脳される傾向は、現代人の「読解リテラシーの低下」が原因だ。

④ 「現代人の読解リテラシー低下」を改善することができるのは、インターネットメディアではなく出版社だ。

⑤ 多くの人が「コメント欄」を「平均的な世間」と思い込まされて読み漁っているのは、じつに不毛な世界だ。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

2024年、日本の出生数は68万人あまりで過去 a、合計特殊出生率は1・15で過去 b、高齢化率は29・3%（9月15日現在）で過去 c。少子高齢化の進行を示す硬い^ア数字たちが、ときどきスマホに飛び込んでくる。そういうとき、「これから社会はどうなってしまうのだろう」と一瞬不安になる。だけど、何をどこから考えればいいのかわからないので、目の前の生活に没頭することにして、結局忘れてしまうのがいつもの繰り返しだった。①

I、「縮む韓国 苦悩のゆくえ」（朝日新書）という本を読み、戦慄^{せんり}した。出生率が0・72（23年）と、日本を超える速度で超少子高齢化が進む韓国社会で、dが描かれていたからだ。

II、子どもお断りの「ノークィズゾーン」を掲げるカフェができ、子育て中の女性に対して「ママ虫」と悪口が言われる。同じように、「ノーシニアゾーン」のお店があり、高齢者が「年金虫」と呼ばれる。子ども（子育て世代）や高齢者という周囲のケアが必要な存在に対する排除が目に見えるほどになっているというのだ。②

その背景には若者たちの「剝奪感^{はくだつ}」があると本書はシテキ¹する。大卒者の就職率は69・6%（22年度）という硬い数字で、日本の98・0%（24年度）に比べてきわめて厳しい。③

III、韓国社会全体がそのような排除の悪循環に覆われているわけではないにせよ、ここにある憎しみのメカニズムは普遍的だ。排除されるならば、排除したくなる。憎まれていると感じるとき、憎まざるをえなくなる。人口が減る。縮む社会は多くの人からなにがしかを奪うから、人々は他の誰かのものを奪いたくなる。憎しみがあふれる。これに戦慄したのだ。④

世代間の分断。そのとき、真に失われているのは時間をめぐる想像力だ。というのも、若者にとって子どもや高齢者は同時代人でもあるけれど、同時に過去と未来からやってきた人たちでもあるからだ（逆もまた真なり）。つまり、高齢者は過去を作った他者であり、子どもは未来をつくる他者だ。そして、それは若者自身の過去や未来の姿でもある。想像できる時間が縮むとき、人々には「現在」しか存在しなくなる。すると、現時点での弱者との重なりや連続性が見えなくなってしまう。⑤

トウトツ²だが、思い出したのは、日々のカウンセリングで出会う、中間テストの前になると勉強しなくなる子どもたちだ。勉強しようと図書館に行くのだけど、スマホばかりいじってしまう。家に帰ってから、せめて明日の朝までに英単語だけでも覚えなくてはと思うが、ゲームをしていたら朝になっている。結局、全く勉強せずにテストを受けたり、テストに行かなかったりする。

勉強した方がいい、と周囲の大人は言うし、実は本人たちも頭ではわかっている。でも、できない。勉強したところで、良い点をとれる未来が見えないからだ。これまでのテスト結果で突き付けられてきた硬い数字たちが、そしてその数字をめぐってなされてきた周囲の対応が、彼らを傷つけている。すると、未来が怖くなるので、目の前のスマホに没頭することになる。未来を考えられなくなるのは、悪い未来しか想像できなくなるするときなのだ。

臨床心理士として、そういうときに必要なのは、その恐ろしい未来を共にしてくれる人だと思う。一緒に勉強してくれる友人ができると、とりあえず明日のテストのための勉強に現在を使うことができる。未来を怖がっていることを誰かが知ってくれているときに、少しでもその怖い未来にウスメを開けていられる勇気が出る。

IV、当たり前だが、中間テストと少子高齢化は違う。どちらも硬い数字をはじき出してくるにしても、人口という硬い数字の向こう側には、一人一人の柔らかくて脆弱な生活や人生があつて、それはテスト結果と違って、一晩の努力でおいそれと動かせるものではないからだ。実際、社会の努力とは裏腹に、硬い数字は年々硬くなり続けている。

トホウに暮れてしまう。未来の生活や次世代の人生はどのように変わってしまうのだろう。想像することもできない。だから、話は最初に戻る。

縮む社会。それは人口が縮む社会でもあるし、経済が縮む社会でもあるし、想像できる時間が縮む社会でもある。少子高齢化という未来には、私たちの考える力そのものを奪ってしまう力がある。そのとき、共感できる他者の範囲は狭まり、憎しみが芽生えやすくなる。そのヨチヨウはすでに日本社会の現在にも現れているはずだ。

どうしたらいいのだろう。新聞評論の作法的には、結論は厳しい警告か明るい処方箋で締めるべきなのはわかっている。でも、縮んだ想像力を未来に向かって広げるために必要なのは、正論による説教でもなく、甘い嘘でもなく、不吉な硬い数字でもないことは心理士として重々承知している。

V、私もまたどう考えていいのかわからない、と書いてみた。不吉な本は閉じて、スマホのゲームでもしようかと思つたが、やはりこの原稿を書くことにした。一緒に考えよう、と言ってくれる誰かがいるかもしれないと思つたからだ。

(東畑 開人『朝日新聞』「社会季評」)

問1 傍線部1～5のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1	F	2	G	3	H	4	I	5	J
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問2 空欄 a c に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

① 最低	② 最高	③ 最多	④ 最少		
a	12	b	13	c	14

問3 傍線部ア「硬い」という語が本文中に何度も出てくるが、その意味として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

15

- ① 動かし難く冷厳な
- ② 客観的で普遍的な
- ③ 解決が極めて困難な
- ④ 正確無比で微細な

問4 本文中の空欄①⑤のいずれかに次の一文が入る。この文が当てはまる最も適切な位置を、①⑤の中から一つ選びなさい。

16

文Ⅱ人生を支えるような雇用から多くの若者が排除されている中で、弱者に対する排除が生み出されているということだ。

問5 空欄ⅠⅤに当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の

①⑤の中から一つ選びなさい。

17

- | | | | | | |
|---|--------|---------|----------|---------|--------|
| ① | I たとえば | II しかし | III とはいえ | IV だから | V もちろん |
| ② | I しかし | II たとえば | III もちろん | IV とはいえ | V だから |
| ③ | I もちろん | II とはいえ | III だから | IV たとえば | V しかし |
| ④ | I とはいえ | II だから | III もちろん | IV しかし | V たとえば |
| ⑤ | I だから | II もちろん | III たとえば | IV とはいえ | V しかし |

問6 空欄dに当てはまる語句として最も適切なものを、次の①④の中から一つ選びなさい。

18

- ① 日本とあまりにもかけ離れた厳しい現実
② 人間を「虫」扱いにする差別意識の是認
③ 日本を超える速度で少子高齢化が進む姿
④ 世代間の分断が急速に強まっている現実

問7 傍線部イ「裏腹」という語の意味として最も適切でないものを、次の①④の中から一つ選びなさい。

19

- ① 逆様
② 反対
③ 腹蔵
④ 裏表

問8 筆者の意見に最も合致するものを、次の①⑤の中から一つ選びなさい。

20

- ① 日本の将来のことを案ずるよりも、自分の目の前の生活に没頭することを優先課題とするべきであろう。
② 韓国における世代間の分断とは、若者が子どもや高齢者を同時代人ではない、と思っていることである。
③ テストの前に勉強しなくなる子どもたちは、是非の判断ができずに、未来に甘い夢を抱いているだけだ。
④ 「縮む社会」の現状の中で、未来を一緒に考える誰かがいると信じることは、一つの希望になるはずだ。
⑤ 想像できる時間が縮む社会の中で、今必要なのは、厳しい警告よりも、甘い処方箋の方ではないか。

(以上)